

## 【研究概要】

摂食障害は複雑な精神症状を呈し、時に低体重により致命的な身体状態となりうる疾患である。治療は精神療法を主体とし、対症的に薬物療法を行うが、難治例も多く、慢性化することが多い。近年、反復経頭蓋磁気刺激法 (repetitive Transcranial Magnetic Stimulation : rTMS) が食物摂取への渴望、過食行動の抑制に一定の効果が示され報告があるが、その機序はいまだ解明されていない。本研究では脳波定量解析などを用いながらrTMSの作用機序、および刺激方法の確立を目指す。